

(参考1) 海岸防災林の植栽樹種・方法に関する実証試験について

1. 目的

- 海岸防災林は、飛砂害や風害などから暮らしを守り、津波発生時にはそのエネルギーの減衰や漂流物の捕捉などの防災効果を発揮するとともに、森林レクリエーション活動や生物多様性保全の場ともなる重要な国民の財産。先人たちは、海岸の厳しい気象条件の下でも生育が期待できるクロマツを主体に造成・管理。
- 東日本大震災で被災した海岸防災林の復旧・再生と懸念される南海トラフ巨大地震に備えた全国の海岸防災林の機能強化に向けて、海岸防災林に関する取組事例や提言等を踏まえ、気象条件が厳しい海岸においても効果が期待される植栽樹種・方法等を科学的観点やコスト面から検証し、その成果を反映。

2. 内容

- 場所： 宮城県岩沼市内の林野庁東北森林管理局直轄治山事業施行地
- 内容： 植栽木の種類や客土の有無を組み合わせる試験エリアを設定
 - ①盛土して、常緑広葉樹を主体に広葉樹を植栽
(広葉樹の種類: アカガシ、スダジイ、ウラジロガシ、シラカシ、タブノキ、マサキなど)
 - ②盛土して、クロマツと常緑広葉樹主体の広葉樹を植栽
(広葉樹の種類: アカガシ、スダジイ、ウラジロガシ、シラカシ、タブノキ、マサキなど)
 - ③客土して、クロマツと落葉広葉樹を植栽
(広葉樹の種類: ケヤキ、コナラ)
 - ④海砂を盛って、クロマツを植栽
- 期間： 高潮等の影響による植栽木の生育状況をモニタリングして、防災林としての効果の発現状況及びコスト等を検証。途中段階で得られた知見は随時反映。
- 実施体制： 林野庁(東北森林管理局、仙台森林管理署)が、宮脇昭横浜国大名誉教授、日本海岸林学会等の指導を得て実施。

(補足資料) 海岸防災林の実証試験地の状況等

位置



試験地の状況



撮影方向



宮脇昭名誉教授との現地調査状況



日本海岸林学会との現地調査状況

